

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200888		
法人名	(有)日本サポートリンク		
事業所名	色えんぴつ・四日市		
所在地	三重県四日市市赤堀1丁目6-2		
自己評価作成日	平成25年8月17日	評価結果市町提出日	平成25年11月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JivogyoCd=2470200888-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成25年 9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住む場所が変わっても、その人らしく暮らしていただけるように、ご本人の思いや願い、その人が生きてこられた歴史を大切に、ご家族と共に密に連絡を取り合い、協力していただきながら支援につなげている。医療面においては主治医はもちろんのこと、訪問歯科医、かかりつけ薬局、訪問マッサージと連携を取りながら支援をしております。利用者にとって、心地よく過ごせる場所、その人らしく生活できる場所を目指し、1日一回は大きな声で笑い合えるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

企業理念、事業所理念を大切に、そして事業所名の「色えんぴつ」とつけた思い「様々な個性の方が1つ屋根の下で生活するなかで職員はそれぞれ違いのある利用者(芯)を大きな気(木)で包み込み支援していこう。」と取り組んでいる事業所である。日々創意工夫を全職員で考え提案や意見としてあげ、施設長はじめ管理者と共に利用者の立場で支援にあたっている。3姉妹での利用もめずらしく居心地の良さが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたらしくいつまでも」の理念に添い、その人らしく生活して頂けるように支援している。また地域の方とも交流が持てるよう、地域の催し物に参加できるよう努めている	事業所理念・企業理念を大切に、毎日の申し送りや月1回のケース会議時に事例をもとに理念の意義を踏まえた話をしたりして共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人たちとの挨拶、地域での行事や催し物への参加、また開けた施設作りに努め、近所の方が立ち寄ってくださる際に会話をもつなどして、繋がりのある付き合いをしている	近所は工場やマンション、アパートが多いが、地区の自治会に加入している。運営推進会議に自治会長に参加してもらっており、地区の祭りや文化祭には参加している。また、近くの会社の託児児童との交流をもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の体験実習を受け入れたり、専門学校の実習の受け入れ、認知症への理解を深めて頂くとともに、運営推進会議を通し、自治会や民生委員の方々と共に協力できる体制作りをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の会議を行い、施設の状況報告、ヒヤリハット、利用者様の様子を見て頂いたりしながら、意見を取り入れている	市、自治会長、家族、民生委員の参加により年6回開催しており、事業の状況報告を行い意見や情報をもたらしている。避難訓練の時「中をみてください」を首にかけたのを確認して点呼表を作成するについての提案を活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や催し物を通し、行政や地域の方の参加を呼びかけ、施設の状況を知っていただけるようにしている。また介護相談員の受け入れをし協力関係を築けるよう努めている	運営推進会議への参加により情報交換をしたり、更新時の手続きなど日常的に協力関係を築く取り組みをしている。大雨の時に事業所の前の側溝があふれ、浸水のおそれがあるので何度も市に相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員がしっかりと理解し取り組んでいる。言葉の拘束にも気をつけ、抑制しない支援に努めている	玄関の施錠はしておらず、いつでも中庭に出ることが出来る。拘束的な言葉つかいに注意し、見守りの連携で拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならないことで、会議や研修において常に話し合っている。職員間でも注意喚起し合っている。今後も見逃すことが無いよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方には知りえる情報提供を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、施設内の見学なども勧めている。利用者およびその家族にとって安心して利用できる施設である事を納得していただいた上での契約としている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	イベントや面会時にご家族と話す機会を持つようにしたり、面会ノートに意見書を別途はさみ、意見を話しやすい環境作りになっている	面会や行事の時に、意見を出しやすい環境づくりをしている。利用者別の面会ノートに意見・要望が書ける用紙をはさみ自由に記入してもらっている。連絡事項や要望が記入され、それに対して回答などで対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議において、意見・提案を話し合っている。週報の要望欄を活用したり、必要時にはいつでも話し合いが出来るようにしている	申し送りノート、週報(1週間の状況報告や要望を社長まで報告)、月1回のケア会議などで意見を話し合い支援に反映している。日常的には特記事項などはメモに書き、事務所の見やすい場所に貼り共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な自己評価、管理者の評価を行い、能力に見合った報酬を定めたり見直したりしている。外部研修や講習会などについては常に掲示しており、希望すれば参加できるよう配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルにあった研修を行い、理解を深め介護現場での不安や悩みを解決できるように取り組んでいる。研修後は会議の開催に合わせ、研修参加者を中心にOJTを行い全員で共有する機会を持つようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などを通し他事業所との交流を持ち、互いの活動を知ることでサービス向上につなげることが出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階からご本人の要望や家族の思い、入居に至るまでの経緯を知ることで、その方の思いをくみ取り、安心した生活を提供できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人とご家族の関係性や入居に至るまでの経緯を聞き取りすることで、要望などを理解し、出来る限り応えられるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態やそれまでの環境を知ること、何が今必要かを話し合い、家族の協力を得ながら進めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話、コミュニケーションの中から、したい事したくない事、出来ること、出来ないことを理解し、毎日の生活における活動をさりげなく支援できるよう心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人との関係を理解し、協力していただけることはお願いすることで、家族と本人の繋がりを無理が無いように継続していただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や本人から特別な要望が無い限りは、面会や外出などいつでも受け入れている。	入居10年になり馴染みの人や場の忘れが多くなるなか、家族により墓参りや買い物に出掛ける利用者もある。3姉妹での利用者はそれぞれお互いを意識し見守る様子があり大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る出来ないや、利用者同士の好き嫌いがあるが、職員が間に介し自然に交流が持てるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があれば受け付ける体制をとっている。亡くなられた方のご家族とは今でも交流があり、一周忌などにも参加させていただいた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の意思が伝えられる方には、希望を出るだけ叶えられるよう支援している。意思が伝えられない方も、日常の何気ない会話や表情から察したり、ご家族からの要望を取り入れるよう努めている	それぞれの利用者の会話や表情・行動から、職員が気づいた事をケースファイルに記録して、職員で共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式を使い情報提供をしていただものを基に、日々の生活の中での会話やご家族からの情報を基に把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で個々の1日の過ごし方を理解し、変化に目を向けながら、その人らしさを大切に、出来ることをしていただけるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、本人からの意向を踏まえ、職員会議でカンファレンスを行う。計画作成担当者が暫定の計画書を作成し、再度話し合い正規の計画書を作成し同意を得る。毎月モニタリングを行っている	計画作成担当者は業務日誌等から暫定の計画書を作成し、職員に検討してもらい、会議にて意見交換をし計画書に反映し家族意見を取り入れ同意をもらう。モニタリングも3か月毎に行い評価もしている。毎日、計画書に対するサービスチェックもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや実際の状況を個別に記録し、申し送りでより詳細に伝えることで変化に対応できるようにしている。必要時は24時間シート、体位交換表などを利用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医以外の専門医への受診対応や結婚式や法事への参加への支援。外部より訪問歯科医や訪問マッサージを受け入れ必要なニーズに応えるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園との交流や、祭りなどに参加することで、地域で暮らす人たちとまじり合える環境を作る事で、楽しみが増えればと考えている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長期に渡り近くのかかりつけ医の協力を得ている。さまざまな問題にも細かな対応をして頂いており、必要時には専門医への紹介状を書いてもらえ、スムーズな受診に繋がっている	全利用者が協力医をかかりつけ医としている。協力医は近くにあり通院介助にて支援している。また、週1度協力医の看護師が勤務しているので適切な医療を受けられる状況である。他科の受診は家族の協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度協力医の看護師が勤務している。状態を見て処置や主治医への細かな情報提供をしてもらい、受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	細かな情報提供が出来るようにしている。主治医との意見交換が出来る体制を取り、安定した状態で施設に戻れるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に簡単な意向はお聞きしているが、重度化、終末期においてはそのつど本人・家族・主治医と話し合いを持ち、適切な支援を心がけている	入居時に看取りについて説明している。状態の変化で家族や本人の意向が変化するの、何度も医師・家族・職員で話しあって看取りを行っている。看取りを行った事で、職員の事業に対する絆が一層深まった。	利用者の高齢化に伴い今後事例も出てくる事から、事業所として看取りについて出来る事を全職員で話し合い家族に説明し、事業所の方針を共有できるように「看取りの指針」の作成が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急・急変時のマニュアルはあるが、まずは冷静な判断、対応が出来るように普段から指導している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定例会議や運営推進会議で何度も話し合ってきている。年2回の定期訓練だけでなく、消防点検時に訓練をしたり、非常食や防災品の準備や、避難方法の確認を行っている	年2回の避難訓練は利用者と共に実施したり、近くの会社の避難訓練にも参加している。災害対策には充分意識し、様々な方法で行っている。	災害時に昼夜を問わず利用者が避難出来る方法を全職員が身につけられる様に、いろいろな方法で日常的に訓練をかさねることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心がけて個々に合った対応に努めている。名前は本人や家族に馴染みのある呼び方で対応している	誇りやプライバシー確保について、常に職員間で確認しあっている。特に名前の呼び方は入居時に家族に確認している。また、トイレ誘導についてもさりげなく声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を理解し、自己決定に繋がるように支援している。入浴の有無、献立の内容など生活のいろいろな場面で希望が取り入れられるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度生活の時間は決まっているが、個々のペースで生活できるよう支援している。無理強いにならないよう心がけ声掛けに工夫をしている。意思の疎通の難しい方にも配慮を忘れないようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容や洋服選びもそれぞれの好みを理解し対応している。外出時に「よそ行き」服に着替える人もいる。訪問理容でカット、顔そりなどをしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや意見を聞き献立に取り入れている。誕生日の特別メニューや年に数度の外食も取り入れながら食べる楽しみを持って頂けるようにしている。出来る方には盛り付けや後片付けを手伝ってもらっている	昼食は調理師が隣設のデイサービスと一緒に調理している。朝・夕食は、利用者の好みのメニューも取り入れ、買い物から調理・盛り付け・片づけ等、出来る利用者は職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ、食事形態や量に配慮し、栄養バランスに気をつけている。水分補給はいつでも好きな時に飲めるよう目につくところにお茶などを用意してある。自分で飲めない人には定期的な水分補給を心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを支援している。自分で磨けない方には口腔ケアティッシュを使い清潔に保てるようにしている。必要に応じて訪問歯科医にアドバイスを頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々のパターンを読み、トイレの声掛けや誘導を行っている。排泄前の癖を知ること、パッドを使用しつつもより快適に過ごしていただけるよう支援している	ほとんどの利用者が布パンツとパット利用で1日を過ごしている。トイレ誘導によりトイレでの排泄をし、気持ちの良い生活の継続の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録や今までの生活暦なども活用し、個々に合った支援をしている。朝食後のトイレ誘導を習慣とし、午前のおやつ時にバナナジュースを取り入れたり、酒かすの利用で自然な排泄に向けて努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の時間設定はあるが、個々の希望を取り入れて入浴できるよう支援している	毎日入浴の利用者が2名あるが、他の利用者は週に2～3回入浴している。季節により柚子・菖蒲・入浴剤による湯を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休んだり、フロアのソファで居眠りしたり、個々の習慣や状況に応じて過ごしていただいている。居室やフロアの温度湿度にも常時気を配り調整している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬間違いが無いように、名前・日付を声に出して確認し、その都度チェック表に記入している。定期的に薬剤師との勉強会を開き服薬のタイミングや必要量のアドバイスを頂いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、各自が出来ることや興味を持っていただけることを役割として行えるように支援している。買い物やおやつに合わせての外出を行い気分転換を図れるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の希望や季節ごとの外出支援は積極的に行っている。入居者の希望を元に外食やおやつを食べに外出することも多くある。職員が付き添えない場合はご家族にも協力いただけるようお願いしている。	日常的には中庭に出て、外気浴やレクリエーションを楽しんでおり、買い物等希望があれば一緒に出掛けている。また、季節の花見、イチゴ狩り、紅葉見物には少し遠出をする事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している人はほとんどいないが、外出時には小額の現金を持っていただき、自身で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気と毎日の掃除で清潔を保つようにしている。空気清浄機、加湿器など季節にあった必要なものを遣い、過ごしやすい環境を作るように努めている	居間兼食堂を中心に居室がある。天井の高いふきぬけの造りで解放感があり、天窓からの彩光が暖かかったり、暑かったりと四季を通じて変化があるので工夫し対応している。壁面には行事写真や共同作品が飾ってあり居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大まかな席は決まっており、話しやすい人、そうでない人を各利用者がある程度理解している。独りになりたい時は自室へ、話したい時は気のあった方とおしゃべりと、各利用者が好きなように過ごせるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ本人の馴染みのある物を持ってきていただくようにしながら、作品や写真を加え、その人が落ち着けたり、見慣れた場所になるよう努めている	事業所の備品はクーラーのみでベット、整理タンス等好みの家具が配置され、部屋飾りもそれぞれの好みでしてある。どの部屋も清潔で居心地の良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすいサインや絵を使い、自然に理解できるように工夫し、危ないから隠すという発想はしないように、どうすれば安全に暮らせるかを考えるようにしている		